



I 教育目標

◎すすんで学ぶ子（重点目標）：問題解決力の育成

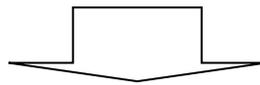
「学んだ知識を生きる知恵として主体的に活用し、問題解決に取り組む児童」

・思いやりのある子：人間関係調整力の育成

「優しさと寛容の心を持ち、互いの人権を尊重する児童」

・きたえる子：実践力の育成

「健康な心と体を持ち、挑戦し、やり遂げる児童」



「ともに 励もう とともに 伸びよう」

学ぶ喜びのある学校

子供の小さな成長を認め励ます指導

II 教育目標達成のための基本方針

(1) 「すすんで学ぶ子」を育てるために

- ①論理的に考え、課題を発見し、解決する力の育成
- ②授業の充実（「めあてと見通し」「自力解決と学び合い」「まとめと振り返り」）
- ③基礎・基本の定着の徹底（東京ベーシック・ドリル診断シートの活用）
- ④読書活動の充実（読書週間、朝読書、読み聞かせ、各教科と関連させた計画的指導）
- ⑤個に応じた指導の充実（ICTの活用、特別支援教室の充実）
- ⑥授業時間の確保（行事等の準備や指導時間の改善）

(2) 「思いやりのある子」を育てるために

- ①生活指導の重点目標「元気のよいあいさつ」「心をこめた言葉づかい」の指導
- ②子供同士の温かい人間関係と教師と児童の信頼関係をつくる指導
- ③いじめや暴力を許さない意識の向上
- ④ふれあい月間の取り組みの充実（6月、11月、2月）

(3) 「きたえる子」を育てるために

- ①自分の心と体の健康や体力に関心を持ち、主体的に活動するための取り組み
- ②粘り強く主体的に取り組む児童を育成する取り組み
- ③安全で安心できる学校を創る取り組み

(4) 保護者・地域・学校が、共に子供を育てるために

- ①コミュニティ・スクールの充実
- ②保護者や地域の方の授業への参加
- ③情報の発信と共有（個人面談、保護者会、学校だより、学年便り、HP、学校公開）
- ④働き方改革（校務等の改善、共同事務室の充実）

Ⅲ 基本方針推進のための重点取組

(1) 「すすんで学ぶ子」を育てるために

①論理的に考え、課題を発見し、解決する力の育成

- ・総合的な学習の時間の充実を通じたE S Dの推進
(ユネスコスクールの活動、深まりのある探究活動、評価)
- ・ICTを活用した情報収集や意見交流の充実、思考ツールを活用した学習への取組み
- ・各教科・領域の特性に応じた課題解決型の授業の実践

②授業の充実

- ・教師の授業力の向上(年間3回の授業観察を実施)
- ・授業改善推進プランの確実な実施
- ・学習のめあてを明確にし、解決への見通しをもたせる。
→自分の考えをもたせた上で、考えを交流し、学び合い高め合う場を設定する。
→めあてに正対したまとめをする。自分の成長、次への展望を踏まえた学びを振り返る。

③基礎・基本定着の徹底

- ・東京ベーシック・ドリルを活用し、単元の学習の前に必要な既習事項の確認を行う。
- ・診断シートを年3回(3月、7月、12月)実施・評価し、必要な指導を行う。
- ・地域未来塾の指導員と連携し、児童個々の課題を共有する。
- ・朝学習の時間(火曜日:算数)の確実な確保

④読書活動の充実(読書週間、朝読書、読み聞かせ、各教科と関連させた計画的指導)

- ・読書量の確保…週1冊、年間50冊以上の読書
- ・「心に残った言葉」を見付ける活動への取組み

⑤個に応じた指導の充実

- ・ICTを活用した個に応じた課題の提示と指導
- ・特別支援教室担当教員(以下、ひばり教員)と担任・専科教員が児童の状況と効果的な指導方法について共有し、指導にあたる。

⑥授業時間の確保(行事等の準備・指導時間の改善)

- ・本校の特色ある教育の活動時間を「行事」として確実に確保する。
- ・瓜生太鼓の練習、瓜生まつりの準備等

(2) 「思いやりのある子」を育てるために

①生活指導の重点目標「元気のよいあいさつ」「心をこめた言葉づかい」の指導

- ・週1回の生活指導夕会を通して、児童の課題を全教員が共有し、指導に当たる。

②子供同士の温かい人間関係と教師と児童の信頼関係をつくる指導

- ・「特別の教科 道徳」の授業の充実…重点項目「個性の伸長」「親切、思いやり」
- ・課題を自分のこととして捉え、道徳的な価値について進んで考えることができる授業
- ・考えるに値する発問や場面の工夫、児童が葛藤する場面の設定
- ・朝、児童を笑顔で迎える。
- ・たてわり班活動(異年齢活動)の充実

③いじめや暴力を許さない意識の向上(いじめ防止基本方針に基づいた取組み)

- ・月1回のいじめ防止委員会の実施
- ・被害児童を守ることを最優先し、迅速な事実確認、加害児童への指導を行う。
- ・いじめの未然防止、いじめの早期発見・早期対応、いじめへの対応を確認・実践する。

④ふれあい月間等の充実

- ・生活に関するアンケート調査の実施

(いじめ等学校生活3回、連休・長期休業明け2回、体罰1回)

(3)「きたえる子」を育てるために

①自分の心と体の健康や体力に関心をもち、主体的に活動するための取り組み

- ・体力テストの結果を活用し、児童の課題意識を高め、実践につなげる。
(体育科授業における運動時間の確保、生活場面での体力向上の工夫)
- ・縄跳び週間、ペースランニング週間、わくわくチャレンジタイムの実施
- ・栄養教諭を中心とした食育の充実
- ・S.Cを活用しやすい環境の整備と教員との連携強化

②粘り強く主体的に取り組む児童を育成する取り組み

- ・児童自身が「目標の設定」「方法の選択」「振り返りと調整」を行う学習スタイルの構築
- ・教職員による粘り強い指導、励まし
- ・特別の教科 道徳「希望と勇気」「努力と強い意志」への取り組み

③安全で安心できる学校を創る取り組み

- ・アレルギー対応、熱中症対策(運動会の午前実施)、感染症対策
- ・避難訓練を中心とした防災教育の充実、安全指導の確実な実施
- ・交通安全の指導…自転車のヘルメット着用の啓発(保護者アンケート等による調査)
- ・セーフティ教室の実施(インターネット利用における自分の身の守り方)
- ・校内環境の整備…安全点検の確実な実施

(4) 保護者・地域・学校が、共に子供を育てるために

① コミュニティ・スクールとしての活動の充実

- ・学校運営協議会による学校運営についての協議の充実(年間5回実施)
- ・地域学校協働本部を核とした地域との連携の充実
(たけのこ掘り、昔遊び、永山南公園の活用、学習のG.Tのコーディネート等)

②保護者の教育活動への参加

- ・家庭科等の実習、近隣の校外学習の引率等の呼びかけ

③働き方改革

- ・学校の教育活動や校務等の改善・改善の継続
- ・教職員間の連携
- ・共同事務室の充実(事務室の効率的な運用、私費会計管理等の改善)

IV 教育課程の編成方針

(1) 教科・領域の指導の充実

- ①学習指導要領に示されている目標・内容に準拠した指導の時間を確実に確保する。
- ②教科担任制を活用し、教員の授業力向上を図る。
- ③総合的な学習の時間を探究活動中心の学習となるように継続する。

(2) 行事の改善

- ①これまで精査してきた行事時間の確保を継続する。

V 時数の確保

※以下の時数を確保できる授業日数を設定する。

(1) 教科・領域の時数は、標準時数を超えて指導する場合、行事時数B又はCとして確保する。

①行事時数A (行事当日の時数、保健行事、避難訓練、儀式的行事等)

②行事時数B (行事の事前指導、練習等の時数)

③行事時数C

(学級指導、生活指導の時数、教科・領域に位置付けることが難しい内容の時数)

④余剰時数 (臨時休業日等への対応)

※余剰時数・休校、学級閉鎖等への緊急対応のための時間16～20時間(学級閉鎖対応)
指導時数の不足、指導・活動したいことが出てきたに対応する時間ではない。

※授業日数・最低日数の指定はなく、時数確保ができればよい。

VI 瓜生太鼓指導計画

※瓜生太鼓は、本校の「特色ある教育」であるため、必要な指導時間を確保するが、「総合的な学習の時間」では取り扱わない。

(1) 教育計画での位置付け

1 教育目標

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

④ユネスコスクールとして地域社会や学習支援者等と連携してESDを推進する。

イ 我が国の伝統文化である和太鼓の学習を通して、文化を継承し、演奏を披露することにより和太鼓の良さを広く伝え、持続可能な社会を構築しようとする心を育てる。

2 指導の重点

(6) 特色ある教育活動

①学校2020レガシーとして行う全学年での和太鼓学習では、児童が目標をもって取り組み、地域・他学年との交流会や成果を発表する機会を通して達成感を味わわせ、瓜生小学校の児童としての自覚と誇りをもたせるとともに、我が国の伝統文化及び他国の伝統文化を尊重する態度を育成する。

(2) 教科・領域等における指導時間の時間割り振り

<令和6年度>

	指導時数の振り分け			技能の目標・演目	発表機会
	音楽	行事	合計		
1年	10	10	20	龍神太鼓(簡易)	6年生を送る会、入学式、6年生との交流
2年	5	10	15	ぶちあわせ太鼓(簡易)	音楽会
3年	5	11	16	嵐山太鼓	6年生を送る会
4年	5	10	15	龍神太鼓	集会
5年	2	14	16	こどもばやし	音楽会、音楽発表会、どんど焼き 6年との交流
6年	3	10	13	ぶちあわせ太鼓	ケアプラザとの交流 1, 5年生との交流(2) 瓜生まつりオープニング

VII 教育者としての資質・能力を向上させるために

- ・教職員が一丸となって、全力で子供の「協育」にあたり、共に生き、共に学び、一人一人の子供の輝きが見える学校をつくっていく。
- ・人権教育を基盤として、「ウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良好で満たされている状態）」を実現させる。
- ・毎日、笑って、楽しく、幸せになれる小学校「笑楽幸（しょうがっこう）」を共に創っていく。
- ・全教職員が心ひとつに率先垂範（先頭に立って模範を示す）で、日常の指導にあたる。
- ・子供を主語とする。教師は、子供が最高の学びを得るために、子供が何を望んで、どう行動しようとしているのかを把握し、それを支援していく。
- ・一人1台タブレット端末等のICTを効果的に活用し、全ての児童の可能性を引き出し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図っていく。
- ・授業のねらいに即して「何を学んだか」「何ができるようになったか」「どのように学んだか」についての振り返りを通して、主体的に学ぶ態度を育成する。
- ・自分の大切さと他の人の大切さを認め、人のために行動できる力を育成する。
- ・誰一人取り残さない教育の実現に向け、人権・生命尊重を基盤とした、いじめ・不登校等の生活指導上の諸課題に対する組織的な対応の徹底と充実を図っていく。
- ・SMAP「Smile（笑顔）、Mission（使命感・責任感）、Action（行動力・実践力）、Passion（情熱）」をもって行動していく。
- ・凡事徹底（誰にでもできる当たり前のことを誰よりも徹底的に行う）が、できる子供を育成していく。
- ・知覚動考（知って、覚えて、動いてから考える）が、できる子供を育成していく。
- ・「ほう（報告）、れん（連絡）、そう（相談）、だ（打診）」を心掛ける。
- ・日常的に「あ（挨拶）、い（命）、う（運動）、え（笑顔）、お（思いやり）」を大切にしていく。
- ・挨拶「あ（あかるく）、い（いつも）、さ（さきに）、つ（つづけて）」が、できる子供を育成していく。
- ・3ワーク「フットワーク・ネットワーク・チームワーク」を大切にしていく。
- ・SWIM 話法「S（すごい・素晴らしい・さすが・その調子）、W（うまい・分かる）、I（いいね）、M（見事だね）」を会話に取り入れていく。
- ・問題が発生した場合「さ（最悪を考える）、し（慎重に行う）、す（素早く対応する）、せ（誠実に対応する）、そ（組織的に対応する）」で解決していく。
- ・危機意識をもって「あい（間を空ける）、て（手を洗う）、ます（マスクをする）、か（換気をする）」等により、感染症対策に備えていく。
- ・TEAM すなわち、Together（一緒に）、Everyone（みんな）、Achievement（達成する）、More（より多くのこと）、個人の力にチームワークを掛け算していく。
- ・「シン GIGA スクール構想」の継続的な実施。GIGA スクール構想で実現した ICT 環境をフル活用して、次のステージに進んでいく。「シン」は、新・真・深・伸等、各人で読み替える。
- ・成長のきっかけは、背伸びである。もともとできることに加え、少し挑戦してみる。
- ・マネジメントの「ABC」は、A（当たり前のことを）、B（馬鹿にせず）、C（ちゃんとやり抜き積み重ねる）こと。
- ・みんなで反応「あいうえお」は、あ（あ、そうか）、い（いい、考えだ）、う（う～ん、なるほど）、え（え～と、助けてください）、お（お陰で、分かりました）。